

松 楓

題字 故 井上知真元校長

41



満開の桜に陽光が降り注ぎ、部活の功績を称える垂れ幕が春風にそよぐ。
撮影者 24回卒 市川光男

埼玉県立飯能高等学校校歌

町田多加次 作詞
鈴木宣彰 作曲

一、雲光る

仰ぎみる
若き我らが
ああ限りなく
高鳴る胸よ
学びの庭に
師とともに

碧き多峯主
眼差しさやか
生命燃えて

励み鍛へん
三歳の秋を

二、夕靄の

縫いめぐる
若き我らが
ああ流れゆく
星霜偲ぶ
学びの園に
師とともに

天地の間
人間の水に
思念浮かべ

三、大空は

武蔵野に
若き我らが
ああ暁々と
吹く朝風よ
学びの窓に
師とともに

暁のいろ
陽はまた昇る
哀歓揺れて

友よいざ
謳い歩まん
青春の日を

謳い歩まん
青春の日を

昭和50年制定

会長就任に当たって

20回卒 会長 本橋 憲一郎

(飯能市在住)



今年の5月に開催されました定期総会におきまして、

前会長の田中さんの後をお引き受けすることになりました本橋です。前会長の田中さんが同窓会の改革に尽力され、特に会報誌「松楓」の編集では、年代ごとに記事を掲載してもらったほか、先輩・後輩のページを設けた事も充実して昔の当時のことから現在の状況までがわかるよう

会長には男女共学1期生の木川一男さんが、副会長には同じく1期生の細田吉春さんが就任され、その下で4つの専門部会を設けて、具体的な事業内容を検討しているところです。私のほか同窓会役員が多くが100周年記念事業実行委員会の役員の一員としてお手伝いさせていただきますので、同窓会を挙げて、この記念すべき100周年記念事業を立派な事業として執り行うことができよう、関わっていきたくと思っております。今後、機会あるごとに会員の皆様方にご案内していきたくと思っております。

月には急逝されました。あまりにも突然なことでしたので、ただただ驚くばかりでした。樋口さんには、2年ほど前に会計役員をお願したのですが、会計事務に詳しいだけでなく、同窓会の運営に対しても、適正で公正な視点をもって貴重な意見を発言されていらっしゃいましたので、同僚からも信頼が厚く、それはそれは立派に役員職務を担っておられました。その樋口さんを失ったことは、同窓会の役員会としても大きな損失でありましたが、残された私たちが樋口さんの遺志を継いでいきたくと思っております。樋口さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

ツ界から、政界、財界にまで幅広い分野で多くの方々が立派に活躍されています。私たち一人ひとりが飯能高校の卒業生であることの自覚をもってそれぞれ年代・立場で社会に貢献していくことが、飯能高校の信頼と発展につながっていくものと思っております。また、同窓会会員のそれぞれの活躍ぶりを会報などを通して機会あるごとに紹介していきたく思っていますし、また、会員同士が相互に励ましあいながら、友好と親善を深めていけるよう同窓会の運営に努力していきたく思っています。そしてまた、飯能高校卒業生であることに誇りが持てるように、母校飯能高校のご隆盛をお祈りしております。

活力ある飯能高校を目指して

校長 岩澤 正明



同窓生の皆様には、日頃から本校の教育活動に對しまして御礼

解・御協力をいたしておりますこと、心より感謝申し上げます。今年度の総会において、新たに本橋憲一郎会長の就任が承認され新体制のスタートが切られました。退任された田中会長様には、長年にわたり同窓会の運営はもとより、元教育関

係者として、本校の諸活動にも大変御理解をいただき本当にありがとうございます。本橋会長様は、元副市長、100周年の実行委員長としてもご尽力いただいております。その実力は申すまでもありません。さらに、副会長に地元の教育事情を熟知している澤田清志元飯能市教育長が就任されるなど100周年に向け、心強い体制が整ったと期待しております。

また、ご案内のとおり、飯能高校は、2022年には、100周年の節目を迎えることとなり、すでに木川一男会長、細田吉春副会長のもと100周年実行委員会が組織され各部会を中心に準備が進んでおりますことにも重ねて感謝申し上げます。

私も校長として3年目を迎えました。この2年間、「復活」を合い言葉に全職員一丸となって学校づくりを努めてきました。徐々にはありますが、その成果が見えてきたかと思っております。

学習面では、「1年生の英語検定全員受検」により、昨年度、準1級1名、そして、今年度の第1回では、準1級、2級にそれぞれ1名ずつが合格しました。今後の進路や上位級合格に期待したいところです。

部活動においても2月のチアダンス部全米準優勝に続き、今年度も女子ホッケー部が、10年連続インターハイ出場を決めたほか、陸上競技部の3年生が女子三段跳びで北関東大会優勝、インターハイ出場、弓道部では、3年生女子1名が国体選手として関東ブロック大会へ、男女団体で全国的弓道大会出場とすばらしい成果を上げてくれました。他の部活動も負けじと、頑張っており、学校に元気が戻ってきた気がします。今後の活躍に期待していただければと思います。

さて、本校では昨年11月より県の事業として教育環境整備基金に取り組んでおります。民間の御協力をいただき学校の特徴

化を図る事業です。本校では「部活動の活性化による強い飯能高校復活プラン」として、全天候跳躍ピットの整備とスポーツトラクターの購入のため、一、六〇〇万円の寄附の御協力を御願しております。同窓生の皆様や企業等での御協力をお願いできればと思っております。

学校といたしましては、今後とも、教職員一丸となって努力を続け、地域の期待に応えられる信頼される飯能高校作りに努めていく所存でありますので、同窓生の皆様には母校の充実・発展のために引き続き御協力いただけますことを切にお願い申し上げます。

特別寄稿

陸上競技との出会い



19回卒
双木 広治
(飯能市在住)

松楓の原稿依頼をいただき、何を書こうかと悩みました。当時の私達は、ベビーブームといわれ、高校に入学する人が多く教室が不足する状況でしたので、私のクラスは、生物室が教室として使われていたので、剥製なども飾ってありました。今は団塊の世代として何かと話題になっていきます。高校の思い出という色々ありますが、陸上競技について書いてみました。

陸上競技を始めたのは、中学1年生の時でした。校庭で野球部や陸上部そのほかクラブの練習を見ていましたが、何となく陸上部に入部しました。この頃は、何も考えずただ練習をしていくだけで、高校に行つて陸上競技をしようとは思っていませんでした。高校入学前の登校の日に、中学校の時の先輩に陸上部に入れと言われ入部しました。入学した昭和39年は、東京オリンピックが開催された年で、100m、400mリレーでの、ヘイズ選手の走りは、とても忘れることが出来ません。その頃の私は、先輩や同じ1年

生の選手が、全国大会で入賞していましたが、すごいことだなあとは思いましたが、自分とはどこか次元の違う事のように感じていました。走り幅跳びを本格的に始めたのは、高校に入ってからで、その頃は、6mも跳べませんでした。練習を続けていく内に、少しずつではありましたが、記録も良くなり、一つの転機になったのは、2年生の秋の県大会で入賞することが出来た事です。このことが自信になり、翌年は、全国大会へも出場

する事が出来ました。全国大会は、天候が悪く、気温も低く寒いくらいのコンディションでしたので、走り幅跳びでは、ランキング上位の人たちが次々と予選で姿を消していきました。そんな中、決勝に進出し入賞できたことは、とてもうれしかったです。

この大会では、今でも忘れることが出来ない事があります。4×400mリレーのことです。第1走者の青木さんから第3走者浅野君まで、とても素晴らしい走りでの最終の私の所まで3チームが並んでバトンパスが行われました。バトンを受けた時、これなら予選は通過できる走りながら思っていました。そのとき、自分の走る前をバトンがとんでいくのが見えませんでした。手の感触でバトンがないのに気がついたときには、バトンを追い抜いていて、バトンを落としたことに気がついたときには、すでに遅く予選を通過こと

が出来ませんでした。そのときのことは今でもはつきりと覚えていません。チームメイトに悪いことをしたと思っています。



それから、50年近くたち、仕事も辞め、自由な時間も出来ましたので、もう一度走つてみようか、楽しみながら大会出るのも良いかなと思わず練習を始めました。最初は、気持ちと体が一致せず思った通りに走ったり跳ぶことができませんでした。怪我をしてしまつてもいけないので、無理をせずにトレニングを進めているつもりでも、少し力を入れて走るとすぐに身体の内側が痛くなつてしまふ、頭ではわかつてはいるつもりでしたが、やはり年は隠せないのだな、若いときと違ってあまり無理をしてはいけないのだなとつくづく感じました。でも、トレニングをしていくだけでは、体が重いつきと、何となく疲れているときは動きたくなくなつてしまふ。何か目標があった方がやる気になるのではないかと思ひ大会に出る事にしました。

いざ、大会に出場しても、初

めのうちは若いときと同じように勝ちたいという気持ちが勝つてしまふ、大会での成績が良くないと、もう少しトレニングしなければと気持ちだけが焦つて、楽しむどころではありませんでした。ここ数年は、それなりに記録も上がつてきましたし、少し気持ちに余裕も出てきましたので、人のことは気にしないで競技に集中できるようになつてきました。今は、楽しみながらあつちこつちの大会に出ています。つい最近も、マスターズの世界大会がオーストラリアのパーズで開催されると知り出場しました。年齢別の大会ですが、世界大会に出場するなど現役の時には考えられませんでした。いが、参加してみると選手間がとてもフレンドリーで、楽しく競技することが出来ました。そんな雰囲気の中でリラックスして競技する事が出来ました。今大会には、5m以上を跳ぶことを目標としていましたが、その目標を達成出来思いがけず優勝することが出来ました。

年齢的に体力を維持していくことが、大変になつてきているので、前年の記録を上回るために、効率の良いトレニングをするにはどうしたら良いか考え進めています。大会や練習の時、他の人からのアドバイスを受けた時には、相手の言葉をそのまま受け止め、それが自分に合っているのかその場で判断するのはなく、まず、言われたこと

を自分の中で理解し、試してみたい、自分に合うものかを確認する。また、他の人が行っている練習をみて、おもしろそうなのがあれば、それを試してみたい、自分に合っていればそれを練習の中で取り入れていくことが出来るか考えて行かなくてはいいと思つていきます。いざいなくても、物事に取り組むには、勝敗はともかくとして、一生懸命取り組み事が大切ではないかと思ひました。

今、思うことは、あの時に、中学校の先輩の「陸上部に入れ」の一言がなかったら、今と違つた道を歩んでいたかもしれないし、楽しみながら陸上競技を続けていることはなかったのではないか、ある意味、人生を決めた言葉ではなかったかと思ひます。



寄稿

碧い大空の青春



高女14回卒
高橋 京子
(飯能市在住)

昭和15年4月 埼玉県立飯能高等女学校に第14回生として入学しました。

験を閉じるとあの2階建ての校舎が、そして、どんとした校門が懐かしく目に浮かびます。私達生徒は西門から入り上級生に挨拶をし、背をピンとして教室に入りました。1年生のネクタイは赤、2年生緑、3年生紺、4年生黒、家政科白とひと目で分かりました。入学式の君が代、校歌。13歳でしたが、すごく大人っぽく歌い方も重々しかったことを覚えています。あの講堂で入学式・卒業式・弁論大会・戦地へ出征される先生方をお送りしたこと、決して忘れる事はありません。

西門が生徒の入口なので大木眼鏡さんの西通りが女学生通り、小学生の私は颯爽と歩く女学生が清潔で美しく憧れました。

女先生方は着物に袴、素敵でした。戦争中の私達は昭和15年6月20日 高尾山遠足が最初で最後の大切な思い出です。

教科では個性豊かな先生方がそれぞれ得意な語り口で教えてくださいました。同窓会報の題字は井上知真先生。教科は国語で私達全員の苗字の由来を一人ひとり教えてくださり「なるほど」と嬉しい思い出の一コマです。英語は2年生で敵国語だからと終わりました。

いろいろ物資のない時代で夏休みの宿題は廃物利用、父母のインバネスコート、着物、カーテン等考え悩み工夫をし、服やモンペ、ブラウス等に作り変え、思わぬ力と自信をつけた大切な時間でした。また夏休みの2回、全員で校庭の草むしりを一列に並んで前へと暑い中働き、畑の作り方も教科にあり歟で土を耕し芋の苗を植え、トイレも汲み取りもし二人で担ぎ下手で大笑いもしました。体操の時間は全員ハダシでグラウンド5周し整列、一列に並び背の高い方から私は4番目・ブルマーと白い体操服でマズルカのダンスもしました。

高学年になった時、軍人の方が教練として組み込まれ、土の上への座り方、伝令、担架の作り方等鉢巻きをして余り食べ物のない中頑張った青春でした。社会に出て身に付いたお作法は有難かったです。1週間に1時間と室でひとり居振る舞い、戸の開閉、座り方、お辞儀の角度等々。

あれから75年現在90歳。いろいろな困難をくぐって来たせいか、何事にも感謝の気持ちが湧き出てきます。生き残った私達は90歳らしく歩くのが大変ですが、おしゃべりは大丈夫。

戦後飯能高等学校に変わり男女共学となり、教育にクラブにと頑張っている姿を陰ながら応援しておりました。この学校に息子が教員となり、あと2年で定年退職だそうです。繋がりと思議な因縁に嬉しい気持ちでいっぱいです。どのように時代は変わっても、青春を精いっぱい生きること。己を信じること。素朴な青春は初恋の様な清らかな思い出です。

終わりに同窓会役員様に感謝と先生方のご健康を祈りいつも母校が輝き前進していく姿を願うこれらの日々を大切に生きて参ります。

生存の喜びと感謝



7回卒
田橋 清彦
(入間市在住)

高校野球で甲子園球場に鳴り響くサイレンの音が、まさに当時の飯高のものと同じに聞こえます。高校生活はそのサイレンでスタートし、それに従って過ごしてきたのだと思うと懐かしく聞こえます。

八十路を迎えたところでの寄稿依頼で、改めて高校時代思い出が蘇りました。

部活の籠球部(バスケット)はほとんど生徒が主体の自主練習で、厳しくまた楽しかったこと。マラソン大会(1万メートル位?)では走って歩いて135位だったこと。体育祭後ファイヤーストームでの大はしゃぎ。フオークダンスで女子と手をつなぎ胸ときめいたこと。授業に熱心な個性豊かな先生方の口調や癖。道に迷って川苔山の野宿。修学旅行では……等々尽きません。

高校生活で最も充実すべき3年は、命に関わるような大病と母の死という大事に遭った試練の年でした。

8月初旬、級友と河口湖にキャンプに行った帰りに腹痛が起り翌日まで続いたのです。治まった数日後に再び腹痛に襲われ、医師の往診で即決の緊急手術。盲腸炎の手遅れで膿が腹中に散ってしまい、当時は命取りと言われていた症状でした。病名は「急性化膿性腹膜炎」、傷口は縫合せず3本のゴム管が挿入されて腹帯が巻かれていました。熱が下がらず数日後の激しい苦痛の2度目の手術。それからの約1ヶ月半の入院闘病生活でした。体は痩せ衰えて一時は「危ないのでは」と噂されたようでしたが、自分では必ず治ると言う希

望と気力は強かったと思います。入院中は多くの人に心配や励ましを頂いたが、何より嬉しく励みになったことは級友が2・3人程度々々では学校の情報などを話して明るい気持ちにしてくれたことでした。

病状は徐々に快方に向かい、9月半ばに退院できて往診治療が続いていた、その最中に母が亡くなったのです。息子が助かり母親が代わりに亡くなったのだと言われました。今でもその様に自覚しております。まさに「九死に一生を得るような」体験でした。

私が一生を得られたのは、腕の良いと言われた医師と医術、多くの人の励ましや支え、自身の気力体力など、更に身代わりと思っている母の命のお陰だと思っております。

学校に復帰後の学業の遅れの不安は、先生方の助言や励ましなどで卒業単位は取れました。しかし、大学受験は失敗に終わりました。

その後は、志望大学を経て就職に就くことができ、約40年間のその職責を全うすることができました。

現在は、既に妻には先立たれてはいませんが、その分も含めて孫育て支援や成長を見守ることを生甲斐として、また趣味や友人知人たちとの交流を楽しみとして過ごしております。

生存を喜び、また感謝します。

卒寿を迎える絆



高女15回卒
新井 満子
(入間市在住)

友があり、今、自分がここに生かされている幸せを感じながら、70年以上前の記憶を手繰り寄せ思い出してみても、ボケ防止と同時に生き甲斐にもなるかと思いつきました。

主人を15年前に亡くして

(1) 君ありてわが身の置き場あるものを何故に行きしか無言の坂を

(2) ひたすらに生きて迷わずたり着き次の卒寿へ明かりを灯そう

(3) 昨晩は頭に浮かぶ短歌として ひと夜のうちに何処か逃げゆく

私は、飯能生まれの飯能育ちです。天覧山の麓に六人兄弟の長女として生まれ、父は52歳と言う若さでこの世を去りました。父は、貧しい農家の次男坊で小学6年ですぐ丁稚奉公に行かされ、そこで生きてゆく方便や知恵様々を身につけたようです。私達兄弟は、人一倍働いた父の背中を見て育ちました。今となっては遅いですが、親孝行をしておけばよかったのにと後悔しています。私は来年、卒寿を迎えます。小学校時代の思い出は、戦争中で勉強より学徒動員で働く一方でしたが、それでも楽しい思い出は山程浮かんでまいります。遊びほうけて桑畑でドドメを口に入れ唇を紫色にして帰り母に叱られた事、第二人が前の名栗川で夕方置き針を仕掛け朝引き上げるとウナギが釣れていて、それを父が割いて焼いてくれた事、早起きして裏の田んぼでイナ

ゴを取り、母が熱湯をかけ羽根をむしって佃煮にしてくれた事、遊びと言えはかくれんぼか鬼ごっこぐらい、でも、なつかしく楽しい思い出です。あの頃、餓鬼大将はいましたが、今のように人を刺したり殺すようなことはなく、人の心には愛がいつも溢れていましたね。

当時、白い大きなリボンをついて颯爽と歩いている上級生のセラー服姿は何とも神々しく憧れでしたが、私たちの頃には時代も厳しくなり、ヘチマ衿の服装に代わってしまいました。2年生までは普通にお勉強が続きましたが、3年生になると戦火はますます激しくなり、防空頭巾にモンペ姿と変わり、私達学徒は軍事工場へと働きに出されました。私は、豊岡にある鍵山工場で飛行機の尾翼を作っていました。ジェラルミンで尾翼を止めます。こんなんで戦争に勝つだろうか？

そんな中でも2年生の頃でしたか、「田谷力三」と言う有名な声楽家の公演があり、その歌声の素晴らしかった事、記憶の裏に刻まれて消えませんが、松浦校長先生の朝礼が長かった事、奉安殿の前で直立不動で聞くのが辛かったとか、良くも悪くも今思い出すと如何に懐かしいか知れません。卒業の半年前には終戦、私達には青春時代はなかったです。ですから松楓のお写真など皆さんで撮った写真などは残っていません。卒業後はまだ何も無い時代です。本当にあの時代から思うと今は何事も夢の様です。今こうして幸せに暮せる事に感謝です。まだ、お友達も大勢生きております。年を重ねてからの行動は更に人生観が加わり、命の有難さを実感して居ります。松楓がいつまでも続きますよう、編集をなさる皆様のご健康と幸せを祈らせて頂きます。



昭和17年3月卒業アルバム
(皇紀2602年)



③昭和19年3月卒業写真



④茶つみの勤労奉仕の様子

写真提供 ① ② 昭和17年3月卒業アルバム
高女12回卒 根本きみ子 (西東京市在住)
③ ④ 高女14回卒 島村とき子 (飯能市在住)

感謝して進学を



8回卒
加村 智代
(久喜市在住)

昭和28年、高校へ進学するのは当たり前ではなかった。埼玉県一大規模校だった母校飯能第一中学校でさえ1クラスの半数の人しか高校へ進学はしなかった。(就職・家業を継ぐ等)私は、親に感謝して飯高へ進学した。紺色の制服に白い衿を付け髷のスカートに革靴で、2キロ3年間休まず歩いて通った。

学級編成は、1組が男子、2組3組4組は女子。2学年から進学、就職、家庭とコース別になった。入学後最初の体育の授業で先生が「町を歩いていても飯能高校生はすぐ判る」とおっしゃった。「背筋を伸ばし二直線に颯爽と歩くこと」を誇らしく学んだ。部活動は、いろいろなことをやり楽しかった。ダンス部で創作舞踊をしたこと、演劇部で県大会に出場新聞部で職員インタビューが新聞に掲載、生徒総会等の体験が後に役立った。

3年2組担任は阪東宏先生。2組の雰囲気は、明るく品が良く、読書家も多く学力もつけていた。ある時、何になりたいか発表する

時間があつた。ほとんどの人が就職希望で、花形は銀行員・デパート勤務・会社員等。私は教員になりたいと言ってしまった。その頃は、高卒では教員にはなれなかつた。恐る恐る親に大学受験をしたいと話した。阪東先生は、急な話にびっくりされて、先輩から参考書を集めて私に貸してくださつた。この真剣なご厚意は一生忘れない。短期の受験勉強だった。埼玉大学卒業後、新任校は飯能市立精明小学校。今も交流続く教え子たちに「あの頃の生活は貧しかったけど先生とよく遊んだね。」この言葉は宝物である。保護者は温厚だった。文部省の中央研修や1か月海外派遣等させて頂き、学校の責任者を終え定年退職して79歳になった。飯能高校の躍進を心から折り、県退職女性校長会会長として後輩たちを支え、よりよい教育環境形成に寄与していきたい。

老後を楽しむ



13回卒
平井 哲夫
(飯能市在住)

飯能高校を卒業して早56年、半世紀余が過ぎ去りました。卒業後、市内の新電元工業に入社、38年勤務し56歳で退職。これからは妻と

気ままな生活をとっていました。しかし、退職後1年半程過ぎた頃体調を崩し、診察を受けましたが、特に悪い所は無い、生活環境の変化が起因かもと言われました。私の先輩が体調を崩した折、散歩を日課に続けて体調が回復したとの話を思い出し、私も散歩を1時間を目安に始めました。そして、2001年夏、突然民生委員・児童委員就任を要請されました。私が毎日散歩しているのを見て暇人に見えたのかも知れません。民生委員の何たるかも理解していませんでしたので私には無理と辞退したのですが多勢に無勢、結局押し切られました。幸い、南高麗地区民協の方達は、先輩の方も又、一緒に就任した人達も皆良い人達で安心しました。

南高麗福祉センター・南高麗中学校・友人に上げています。今、特に力を入れているのは、ダリアの栽培です。一昨年、秩父両神村のダリア園を見て、豊富な花色、豪華さに感銘を受け、昨年より栽培に取り組み、今年は株数も増えましたが、まだまだ両神村の様に立派になりません。でも仏壇に手向けるには事欠きません。最後になりましたが、松楓編集委員の皆様方本当に御苦労様です。

よき友



18回卒
永田 幸雄
(飯能市在住)

皆さんはNHK朝の連続テレビ小説「ひよっ子」をご覧になっていますか。先日は東京オリンピックのシーンが放映され主人公の「みね子」は奥茨城の地で熱烈な応援をしていました。私も高校2年で東京オリンピックを経験し、テレビの前で釘付けとなり応援したのを思い出して、「みね子」と重なりました。あれから53年経ち正しく、光陰矢の如しです。自宅から飯能高校まで徒歩5分の近いうちに住んでいましたので、いつも授業開始寸前に登校し、

時折校門前に教務の先生が服装、帽子等の検査をして慌てた経験もあります。入学時は卓球部に入学しました。が、ついていけず退部し、「社会科学クラブ歴史班」に入りました。「南北」を共通テーマとして、アメリカの「南北戦争」、朝鮮半島の「朝鮮戦争」を松崎先生ご指導の基、夜遅くまで議論を重ねてと評を博しました。その仲間7〜8名で今も付き合っており、旅行に出かけたり、毎年恒例で年末に飯能駅傍の居酒屋で親交を温めていました。このように高校時代はよき友に巡り合えてよかったと同時に、宝物となり、今や半世紀以上過ぎました。私は来年で70歳を迎えますが、この3年間は掛け替えのない高校生活で、人生の分岐点となり今日に至っています。一つ上の先輩から、学校創立100周年を迎えその記念事業を予定しているの、手伝いを依頼されて快諾しました。飯能高校にお世話になった恩返しとして、微力ではありますが、お手伝いしたいと思います。母校の更なる飛躍を心より願っております。

思い出そして今



23回卒
横尾 静男
(飯能市在住)

日頃高校生活の事を思い出す機会が無かったように思う。飯能高校に入学当初は勉強に専念するつもりでいた記憶がある。が、サッカー部に入学してしまっただけで、こそもジャーになってきたが、当時の日本サッカー界は、東京オリンピックの翌年に日本サッカーリーグが発足し、実業団8チームでした。それから3年後のメキシコオリンピックで、何と銅メダルを獲得してしまっただけで、中でも釜本邦茂の得点王となる活躍が記憶にある。後で知ったが、当時のオリンピックにはプロ選手は出られなかったのです。プロチームとなる現在のJリーグは、それから数十年先の事であった。

輩も含め皆個性的な集団でした。そんな荒々しさの中、3年間部活を中心に学生生活を送る毎日でした。

あと、お世話になった先生の思い出も少々。修学旅行でちょっとした行動が問題になり、レスリング部の山中先生と柔道部の大場先生に呼び出され問い詰められ、流石に白状した記憶も懐かしく思い出されます。両先生には今でも頭が上ががりません。さて、その後社会人となり、地元のスポーツ少年団のサッカー指導者として十年間ほど携わる事が出来たのも高校時代のサッカー経験が生きたのかと思います。

今、定年となり感じている事は、自治会活動も含め社会活動に多くの方々が携わり成り立っており、そういった活動に積極的に参加していきたいと思うこの頃です。取止めの無い内容になってしまいましたが、飯能高校同窓会の発展と各委員の皆様の活躍に感謝致します。



28回卒
鯨井 暢
(飯能市在住)

伝統復活

母校に勤務して9年目、最後の

教員生活を迎えました。飯能高校とは縁があり、教員生活のスタートが飯能高校の定時制でした。この頃は在学中にいらした先生方が多く、懐かしさと恥ずかしさを感じたのを覚えています。体育科の先生方はほとんど代わってなく、全日制の行事なども多く参加させてもらいました。長距離走大会ではホッケーの現役選手であった私も、宮沢湖3周を後のオリンピック選手である川島伸次選手たちとともに走ったこともありました。部活ではホッケー部のコーチとして活動し、休部中であった男子ホッケー部も活動を再開し、多い時には男女で50人以上の部員もいました。他の部活も活発で体育館、グラウンドは毎日生徒で溢れていたのを覚えています。このころはインターハイに陸上部、レスリング部、弓道部、卓球部、女子バスケットボール部など出場し活気に満ちていました。

20年ぶりに母校に移ると、その頃のイメージと違い驚きました。生徒数も8クラスから6クラス規模になり女子が6、7割を占め、制服も変わっていました。部活動の生徒は少なく、各部ぎりぎりの人数で活動していました。それから9年、伝統復活を目指し、学校全体でいろいろなことに取り組みました。1年生の少人数

授業、英語検定全員受験、2年生の英語の成績によるクラス、3年生の進路別クラスなどステップアップクラス編成を行いました。制服も学校指定のセーター、ベストの導入で落ち着いた雰囲気になってきました。1年生は部活動全員加入を掲げ、部活動の加入率も上がってきました。その結果復活の兆しが見えてきました。進学についても進路指導の結果、英語検定1級の資格を生かし青山学院大学に合格した生徒や、中堅大学に一般入試で入るなど成果が出て進学率もアップしました。

部活動でも、昨年陸上女子三段跳びでジュニアオリンピックに出場し、女子ホッケーではU18日本代表に1名選出されました。今年はいんターハイに陸上女子三段跳びで県大会、北関東大会を優勝し出場を決め、女子ホッケー部は関東大会3位で関東代表チームに入り10年連続21回目の出場を決めました。弓道は国体関東ブロック予選に埼玉代表として女子1名が選出され、遠



的全国選抜大会に男女団体で出場が決まりました。チアダンス部は昨年全米選手権で前回同様優勝になり、県大会出場他の部活動も含め今後の活躍が期待されます。

5年後に100周年を迎える飯能高校ですが、その伝統を築いてこられた諸先輩方のご支援、ご協力が必要です。母校のためにより興味関心を持っていただければ幸いです。学校のHPなど通して情報を見ていただき今後の飯能高校の躍進に期待していただきたいと思います。

先に逝った友が
教えてくれたこと



33回卒
小出 亘
(人間市在住)

飯能高校を卒業して36年経った昨年、私が所属していた野球部のエースだったIが亡くなった、との知らせが、同じ野球部だったTからありました。

私は、Iと3年間クラスも一緒に、部活も一緒だったので高校時代もっとも長い時間を共にした関係だったと言えます。

野球が全くうまくならなかった私と違って、Iは、1年生の時からピッチャーとして大活躍し、1年の秋には、コールドゲームで参考記録でしたが、ノーヒットノーランを達成し、プロのスカウトも見に来ていたと後から聞きました。

高校時代、最も輝いていた同級生でありました。

そのIが、飯高野球部の同期で、一番先に倒れるとは。愕然としましたが、お通夜に集まった野球部同期の姿を見て、「ああ、俺たちも死というものが、それほど遠いわけではないんだなあ」と気づいたのでした。一人の時

には、全く考えていない「若い」が、同じ年齢の人間が集まったことではつきり自覚されたのです。

私も含めて、皆、平坦な道を歩いているわけではなく、つらい状況にある友もいます。「どうにもならない状況を抱えながらも残された人生を大事に生きなくてはならない」早すぎるIの死が、教えてくれました。こんな形で教わるのは、全く納得が行きませんが。

やや、暗い話になってしまいましたが、近年、地域の集まりで、田中晃一会長にお声をかけて頂き、都築敏夫副会長には、仕事の関係でお世話になるという、飯高出身ならではの喜びを味合わせて頂きました。荒波に溺れる事なく頑張れと励まされる思いです。

試合には出られませんでしたが、野球部に所属したことで、人並みはずれた大声が身に付きました。文化祭の喉自慢では2回優勝しました。野球もこれぐらいのびればなあと当時は思いましたが、現在では、カラオケが特技になり、「入間で第九を歌う会」のコーラスにテノールで参加することができました。やはり野球を続けてよかったと思う今日この頃です。

飯高の仲間



38回卒
宮岡 直樹
(福岡市在住)

ここは博多。そう、サラリーマン憧れの単身赴任生活も早一年。九州はアウエーの地なので転勤が決まったときに同僚からは「何をやらかしたんだ?」と心配してくれる一方、「自分じゃなくてよかった」という声もちらほら。ここ福岡市は人口153万人の九州最大の政令指定都市、僕は埼玉県民はマインナーな県民です。「私は埼玉県民です。我が家は人間市です。地元西武ライオンズファンです!」と話す余計な一言のせいで場が一気に白けます。ここはソフトバンクホークスと豚骨ラーメンが圧倒的絶対的存在の街、言葉には気を付けなくてはいけません。

色々面倒なので親しい間柄の人以外には話していない転勤話を先日飯高時代の部活の仲間と話してしまいました。5月に行われた飯能ツアーデーマーチの時に。

わが柔道部とレスリング部は

西側にあった旧校舎に畳とマットを並べて練習に汗を流す毎日でした。顧問の山中先生と平沼先生の格闘技に対する情熱と強くなりた一心で我々は必死で練習しました。柔道部は良い成績は無かったものの全員黒帯を取得し、レスリング部に至ってはインターハイ出場と華々しい成績でした。両部とも体重階級制だったため、試合前の減量は辛かった。体の余分なものを絞り出す感じですが、今振り返っても高校時代ほど身体を鍛えた時期は無いと思います。そして、僅かな3年間でしたが、同じ釜の飯を食った仲だったからこそ、卒業して30年経った今でも会うことが出ています。毎年恒例化しつつあるツアーデーマーチもレスラー小澤からの誘いでした。町田も参加し、市役所勤務の浅見もボランティア後に合流です。今年も吾野駅から飯能市役所までの30キロコースを8時間で歩き、駅前の居酒屋で反省会を7時間行い、思い出話をしながら大いに盛り上がりました。最終的に決まったのは、「次回は博多でもつ鍋だ!」。だから色々面倒なんだけど、ま、こいつならいいか。

野球に感謝



43回卒
油井 茂
(人間市在住)

卒業してから早26年、地元飯能を地盤として葬祭業を営み多くの方々と関わりを持つ中で、飯能高校卒業の先輩・後輩の方々とこの広がり輪をもつことができ今回の原稿のお話を頂くにあたりました。飯能高校の100年の歴史、伝統の重み、人と人との関わり、つながりを感じて毎日過ごしています。営業先にて、同じ飯能高校卒業生と言うだけで打ち解けて話が盛り上がり上ったり、今年の新人社員が、飯能高校の卒業生と聞き自分の子供ぐらゐの年齢だったり、世間が狭いなとつくづく感じています。

高校生活での思い出は色々ありますが、一番は野球部で過ごした3年間です。飯能リトルリーグ・飯能シニアリーグ、飯能に縁のある野球人生でした。部活動では良き先生・先輩・後輩と共に汗を流しました。甲子園までは、ほど遠い実力でしたが、目標に向かってみんなで一致団結

目標に向かってみんなで一致団結

して戦ったことを覚えていきます。毎日朝早くからの練習、真夏の暑い中での宮沢湖の回りのランニング、入部して慣れるまで大変だった記憶しかありません。家に帰ると食事をして、すぐに疲れて寝てしまう、学校の授業中も、いつもうとうととして、先生に良く怒られていた記憶しかありません。唯一の楽しみはお昼の学食、カレー・カツ井・うどんがとても美味しかった事を覚えております。当時の先生方には、大変申し訳なくご迷惑をかけたと思っております。野球を通して、団結力、忍耐力、礼儀、根性、色々なことを学ばせて頂きました。

2年生の夏の大会、狭山経済戦でレフトスタンドへ本塁打を放って勝利した試合、春日部工業に惜しくも敗れた試合は、いまでも鮮明に覚えております。社会に出てから高校生活で学んだ色々な経験が今の自分の財産となっております。

当時の石田先生、野口先生には、野球以外にも色々な教育、ご指導を頂き誠に感謝しております。近年部員不足が深刻と聞いておりますが、野球部に限らずこれからも母校の益々の活躍・発展を祈っております。

高校時代と今



48 回卒
高宮真美子
(飯能市在住)

今年、2度目の成人式を迎える年齢となりましたが、改めて高校時代を思い返すと、チェックのスカートを穿き、紺色のブレザーを羽織り、履き慣れたハルタのローファーで通学した日々はまだまだ鮮明に蘇り、あれから

20年以上の時間が過ぎていった事が信じられない思いです。

当時は、真新しかった合宿棟。お昼休みに競い合うように買いに走った丸十さんのパン。放課後、お喋りをするためだけに残った静かな教室。体育の時間に校庭の真ん中を走り抜ける西武秩父線の電車で皆で手を振った事など、毎日の何気ないその時の日常が、今となつてはとて

も懐かしく、ただただ楽しかった日々として心に残っています。今は、高校の同級生だった主人

と結婚し、母となり、仕事もし、忙しくも充実した時間を過ごして

いますが、今自分のために使える時間はほんの僅かです。高校時代に有り余るようであった時間を「少し分けて！」と、当時の自分

にお願いしたいくらいです。ここ数年、私のような小さい子供連れのファミリー世代が楽しみにしながら参加できる様々なイベントが飯能で催され、広報などで情報発信も多く、自然に近く、また程良く都心に近

感じる機会も増えました。これからも高校時代に出会えた同級生達をはじめ、友人や家族と子供達の成長を一緒に見守りながら、楽しく歳を重ねていけたらと思います。

そして飯能市民として、また卒業生として、飯能高校の在校生の益々の活躍を期待し、応援していきます。未来の自分が笑って振り返る事のできる思い出を、是非沢山作って下さいと、未来に求めてしまった私から伝えたいです。

部活動の思い出



53 回卒
武田奈津子
(飯能市在住)

私は、小学、中学、高校と飯能で学び育ち、現在も飯能に住んでおります。飯能高校を卒業してから20年弱が経ちますが、

高校生活の中でも部活動の楽しかった思い出は鮮明に記憶に残っております。

私は現在のチアダンス部の前身ともいえるバトン部に所属をしております。今では信じら

れないかもしれませんが、高校1年生で入部をした頃の頃は2年生の先輩は一人もおらず、3年生の先輩も入部後すぐに引退をしてしまわれた為、なんと部員は私を含めてたった5人、存続の危機に立たされてしまっていたのです。

バトン部は6月の発表会、夏の高校野球の応援、文化祭でのステージ発表、新入学生のクラブ活動の発表会が主な活動の場となるのですが、コーチとなる先輩もいなかった為、先輩方の

ビデオを真似て踊りの練習をし、引退した先輩に時々教えにきていただいたりしながら楽しく

部活動に励んでおりました。引退した先輩方の指導はとても優しくそして頼もしく、5人しかいない私たちにやる気を与えてくださいました。そうしてバトン部の活動を続けていくうちに、自分達でどうにかバトン部を存続させようと一生懸命になっていき、気づけば高校生活Ⅱバトン部と言ってよいほど部活動にのめり込んでいきました。

中でも新入学生の発表会では何とか部員を増やしたい一心で皆で試行錯誤しながら練習をし、本番では渾身の演技を披露、

技術が無い分を満面の笑顔でカバー(笑)したところ、甲斐あつ

てその年の新入生は10名以上に増え、更に翌年には部員が25名程にまでになりました。当時の5人で飛び跳ねて喜んだことをつい昨日のことのように覚えております。

あの時、廃部寸前にまで部員がいなかったバトン部が今ではチアダンス部となって全米大会に出場し、飯能では誰もが知っている部活と言っても良いほどに有名になっていて事に感激しております。今後も部員皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

卓球に親しんで



63回卒
市川 賢
(飯能市在住)

双子の兄とともに小・中学校ではサッカーをしていた私達でしたが、健康上の理由で運動制限等を強いられ、高校からは卓球部に入部し、ご指導頂いた顧問の高橋先生をはじめ、先輩や後輩には大変お世話になりました。

私は右利き、兄の薫はサウス

ポー、ダブルスでは絶好のコンビですが、高校から卓球を始めた初心者私達は試合にあまり出られず、せめて中学から卓球を始めたいればスキルも一段と身につき試合で活躍出来たことと思います。一方、サッカーには無い卓球の難しさや面白さ、奥の深さを見いだすことが出来、卓球に親しんで良かったと思っています。

日本の卓球は近年強くなってきており、先日、ドイツで開催された卓球世界選手権ではメダララッシュが続き、卓球王国復活への期待に若い選手が応えて

くれました。平野選手や「みまひな16歳ペア」をはじめ、史上最年少でベスト8に進出した中学生の張本選手の快進撃が話題を呼びました。混合ダブルス決勝戦では吉村・石川ペアが台湾ペアを4-3で破り優勝。同種目の日本勢として48年ぶりの快挙を成し遂げました。準決勝、決勝ともフルゲームの激闘で、いずれも最初の2ゲームを相手ペアに取られました。土壇場で試合の流れをひっくり返し、見事優勝に輝いたシーンは多くの人達に感動を与えました。

また、試合後のインタビュー

に於いて石川選手がパートナーへの感謝の気持ちを第一声で語ったことも私の心象に深く刻まれました。

各選手からは並み外れた向上心とメンタルの強さが特に感じられ、何事もピンチをチャンスに変える底力と最後まで全力を尽くす強い意志、そして、人への思いやりと感謝の気持ちを持つことの大切さを痛感しました。なお、私達兄弟は現在も卓球を楽しんでいます。

部活動の思い出



68回卒
木下沙代理
(入間市在住)

私の高校生活は、部活動を中心として過ごしていました。部活はチアダンス部に所属していました。最初は10数名が入ったのですが、一気に辞めていき、それからまた3人が辞めて、残ったのは5人だけでした。5人は部活がない日や朝などでも

廊下で会うといつの間にかみんな一緒に居ました。

顧問は上田先生で、チア部のみんなからは「てい」というあだ名で呼ばれていて、優しく、時に厳しく、親しみやすい先生でした。先生は私達の為に沢山動

いてくださり、色々な所に踊りに行くことができ、私達にとってはいなくてはならない先生です。でも頼り過ぎず自分達ですっきりやる事はやってきたつもりです。そう感じたのも、先生や先輩、同期とぶつかり合い、話し合いを沢山してきたからこ

そ得る事もあったし、理解し合えたのだと思っています。部活動を通し私達は、日々成長していくことができました。

そして、コーチのみゆきさんが基礎と振り付けを教えてくださいました。みゆきさんは飯高だけでなく他に何チームも教えていて、とても忙しい中、合間を縫って私達にレッスンをしなさいました。私は、みゆきさんの考えたダンスを踊れることが何より幸せで光栄でした。

平成27年の春にはみんなの夢だった本場アメリカで踊ること

ができ、準優勝のトロフィーを獲得することができました。この遠征の為に沢山の方々にご支援を頂きました。本当ありがとうございました。人生の中でもとても良い経験になりました。

私は、飯能高校に入学しチアダンス部に入り、とても充実した高校生活を送れました。今後は飯高チアダンス部のOGチームとしてまた踊りに行ったり、色々な事にチャレンジしてみたいと思います。

喜寿の祝

戦中・戦後・今を生きて



11回卒
武藤 満枝
(飯能市在住)

多くの年代の方に原稿を依頼する中で、喜寿の年令は別枠ということとは、それなりの内容でなくては、と考えました。

1940年(皇紀2600年)から、2017年までの77年の間生きて来た私達は、戦中から平和で豊かな現代まで、様々な貴重な体験をして来ました。

国防服、戦闘帽で身を固め、コンペイ糖と乾パンが入った背のうを背負って、無事戦地から帰って来た父親の姿は、当時5才でしたが今でもしっかり記憶して居ます。そして、憲法が施行された昭和22年、小学校に入学しました。教科書に墨が塗られた部分があったり、先生は今まで教えて来たことが否定されて戸惑った、と言われたことも覚えています。戦後の貧困時代、母親は子ども空腹を満たすために必死に働いて、食べさせるための努力をしていました。その後、自分が親になった時には、豊か過ぎる食糧、物

に囲まれる生活で、我慢すること、辛抱することを教えることに努力が必要になったことを強く感じました。77才の私達は、こんな時代を過ごして来ました。

3月15日付、朝日新聞埼玉少年少女スポーツ「彩のみち」欄に、29年も前に逝去された故、中村由蔵先生の記事を見つけ、驚きと懐かしい思いで読みました。それには、20世紀の坂本龍馬と称され、埼玉のスポーツを復興させた偉人、と語られていました。当時、ソフトボールに明け暮れていた私は、合宿の時に飯能では指折りの旅館であった東雲亭のお風呂に入らせていただいたりしたことは、中村校長先生、顧問の上加先生のお陰だったことにあらためて感謝の気持ちを抱きました。楽しかったあの頃の校庭、教室を思い出し乍ら、この原稿を書きました。



上加先生を囲むソフトボール部員

最後に創立100周年記念事業の成功をお祈りいたします。

100周年記念事業 実行委員会の動き

飯能高等学校創立100周年を祝う記念事業を実施するため、平成27年10月に実行委員会が発足し、間もなく丸2年を迎えます。この間、会則の改正や実行委員の増員を行うなど実行委員会が円滑に運営していくための体制づくりに取り組んできました。そして、今後は実行委員会と同窓会、飯能高校、関係団体の連携と協力体制を築いて準備していくことが必要であるとのことから同窓会、飯能高校、PTA、後援会の関係者による協議会を開催し、記念事業の開催時期や記念事業の内容について協議を行うとともに、他校の創立記念事業の実施状況やこれから実施される予定の高校の創立記念事業についての情報を共有し、意見交換を行いました。その結果、創立記念事業については、2022年度中に実施する予定とし、準備を進めていくことになりましたので、引き続き、飯能高校及び関係機関等との協議を行っていきます。

ての組織体制が整いました。本年度から設置された4つの専門部会(総務部会、祝賀会・イベント部会、記念誌部会、名簿部会)を中心に、実行委員会として本格的な活動が始まり、記念事業への大きな期待が寄せられています。設置された各部会の本年度の事業内容は次のとおりです。

- ①総務部会
 - ・寄附募集の計画案の作成を行う。
 - ・100周年記念事業の全体計画をとりまとめる。
- ②祝賀会・イベント部会
 - ・祝賀会及びイベント事業の具体的内容を検討する。
 - ・祝賀会及びイベント事業に係る概算経費を見積もる。
- ③記念誌部会
 - ・100周年記念誌の具体的な内容を検討する。
 - ・100周年記念事業に係る概算経費を見積もる。
- ④名簿部会
 - ・卒業生名簿の作成事業の具体的な内容について検討する。
 - ・卒業生名簿の作成作業に係る概算経費を見積もる。

実行委員会では、記念事業の実施までには相当の時間がありますが、多くの卒業生や関係者にご賛同いただける記念事業となるように準備を進めていきますので、今後とも同窓会の皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

研修会バスツアー

平成29年度 28回卒 新野代里子 (飯能市在住)

「世界遺産を巡る旅」をテーマに、毎年開催されている研修会バスツアー。今年は、静岡県伊豆の国市にある葦山反射炉を訪れました。

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産のひとつとして、平成27年に世界文化遺産に登録されました。私は昨年、山口県萩市を訪問し、萩反射炉を見ただけに、興味深い思いで参加しました。

江戸末期に、日本の変革を予測し、熱き思いで炉を完成させた人々に思いを馳せ、風格ある遺産を見学しました。また、その葦山反射炉建造の提言を幕府にし、実際に指揮をした江川太郎左衛門英龍の屋敷も見学。現在は重要文化財と

して保存されています。その家は江戸初期に建てられたもので、豪壮な架構を今に伝えています。

最後に、富士の湧水として有名な柿田川を見学しました。川辺と湧水群を含む湿地帯を、トラスト運動により保全しているそうです。都会の喧噪を離れ、美しい林の中を散策しました。

日頃話す機会のなかった同窓生の方々とも交流ができ、楽しく有意義な一日となりました。

平成29年度研修会 7月6日(木)

平成30年度研修会 10月18日(木) 予定



飯能高校は、今年度創立 96 年目を迎えました。

本校は、これまでスポーツ強豪校として、プロスポーツ選手やオリンピック出場選手をはじめ、国際大会や全国大会で活躍する選手を多く輩出してきました。

しかし、近年では、古豪、強豪と言われた飯能高校の部活動もやや低迷し、その影が薄くなってきています。そこで、本校では、来るべき 100 周年に向け、地域の皆様や同窓生の期待に応えるべく、かつての「強い飯能高校」復活のためのプランを策定いたしました。

趣旨に御賛同いただき、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

プラン内容 「全天候型跳躍ピットの整備」及び「スポーツトラクターの購入」

全天候型跳躍ピットを学校のグラウンドに整備することにより、試合会場と同じ環境での練習が可能となります。さらにスポーツトラクターによるグラウンド整備で選手が安心・安全な環境での練習が可能となるとともに練習時間の確保にもつながります。こうした環境整備により関東大会や全国大会で活躍できる選手の育成を図り皆様の期待に応えていきたいと思っております。



寄附募集期間 平成 28 年 11 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日

詳細は飯能高校ホームページの埼玉県教育環境整備基金をご覧ください。

平成 29 年度総会報告

24 回卒 町田 滋子
(飯能市在住)

平成 29 年 5 月 13 日(土)、飯能の名栗川沿い、新緑豊かな清河園において、飯能高校同窓会が総勢 48 名で開催されました。内沼県議、鳥居市議、中元市議も同窓生として参加されました。

飯能高校からは、岩澤校長先生、新任の榎本教頭先生、嶋田事務部長、さらに西 P T A 会長にもご参加を頂きました。

都築副会長の司会で進行、はじめに田中会長のご挨拶から、つづいて本橋新会長へとバトンタッチされました。本橋新会長も、さらにより良く事業の進行を務めていきたいとの、取り組みでした。

つづいて、岩澤校長先生により、新教頭先生、事務部長の紹介の後、チアダンス部の米国遠征での準優勝、ホッケー部さらに陸上部の活躍や、英検準 1 級合格者のことなど話され、飯高がさらにランクアップしていけるよう努力していきたいとお言葉でした。また

さらに、部活動の振興による「強い飯能高校」復活プランのご支援を訴えられました。

次に田中会長が議長を務め、

平成 28 年度事業報告がされ、途中、議長を本橋新会長に代わり、平成 29 年度事業計画、予算案が承認されました。

その後、100 周年記念事業が 5 年後となるにあたり、ご協力を呼びかけられました。

総会最後に、有志の方が手を挙げられ、今年、初めて同窓会があるということを知ったことや、資金不足解消に卒業生全員にむけての働きかけをしたら良いのでは、との意見が出されました。それに対し、本橋新会長は、そのことに対しても努めていきたい由のお言葉を述べられました。

総会終了後は、和やかに懇親会が行われました。

私も総会に初めて出席し、会の存在を知った一人です。このように卒業生の繋がりが強く結ばれ、また、

地域のあらゆる面で、皆様のご活躍されていることを知り、うれしく思います。



平成 29 年度 同窓会役員一覧

顧問	岩澤 正明 (学校長)
	田中 晃一 (16 回卒)
参与	町田多加次 (4 回卒)
	高野伊九子 (5 回卒)
会長	本橋憲一郎 (20 回卒)
副会長	澤田 清志 (23 回卒)
	大野ナミ子 (12 回卒)
	都築 敏夫 (24 回卒)
	新野代里子 (28 回卒)
幹事	佐野 勇 (34 回卒)
	豊田 美子 (35 回卒)
会計	新井 茂 (22 回卒)
	豊田 美子 (35 回卒)
監事	原島 稔久 (17 回卒)
	真野 浩芳 (17 回卒)
会報発行委員	谷ヶ崎艶子 (24 回卒)
	市川 光男 (24 回卒)
	堀口 清 (24 回卒)
	川端 邦明 (25 回卒)
校内理事	鯨井 暢 (28 回卒)
	大野 賢一 (33 回卒)

次回 同窓会総会
平成 30 年 6 月 2 日(土)

平成29年度 飯能高等学校同窓会 予算

自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日

収入の部	単位：円			
科目	本年度	前年度	比較増減	摘要
会費	1,110,000	678,000	432,000	29年度卒業予定者 (222名×5,000)
繰越金	1,245,034	786,286	458,748	前年度から
会報 定期購読収入	37,600	0	37,600	松楓定期購読収入 (188名×200)
雑収入	10	70	△60	預金利子
合計	2,392,644	1,464,356	928,288	

支出の部	単位：円			
科目	本年度	前年度	比較増減	摘要
会議費	70,000	70,000	0	役員会・会報編集
総会費	100,000	100,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	資料作成コピー
通信費	10,000	10,000	0	郵送料
会報発行・ 発送費	600,000	500,000	100,000	会報印刷(6,000部)・ 会報送付等
慶弔費	30,000	20,000	10,000	
事務費	30,000	10,000	20,000	事務用品
事業費	500,000	200,000	300,000	
研修費	100,000	100,000	0	会員・役員等研修
予備費	942,644	444,356	498,288	
合計	2,392,644	1,464,356	928,288	

【積立金残高】

定期預金 8,321,594円
上記の通り 提案いたします。
平成29年5月13日

埼玉県立飯能高等学校同窓会
会長 本橋 憲一郎

平成28年度 飯能高等学校同窓会 収支決算書

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

収入の部	単位：円			
科目	予算額	収入済額	比較増減	摘要
会費	678,000	678,000	0	28年度卒業生 (226名×3,000)
繰入金	786,286	786,286	0	前年度から
定期購読収入	0	700,000	700,000	定期預金から
会報 定期購読収入	0	23,800	23,800	松楓定期購読収入 (119名×200)
寄附金	0	10,000	10,000	小山様から
雑収入	70	6	△64	預金利子
合計	1,464,356	2,198,092	733,736	

支出の部	単位：円			
科目	予算額	支出済額	比較増減	摘要
会議費	70,000	34,583	35,417	役員会、会報編集
総会費	100,000	64,620	35,380	平成28年6月4日(50人)
印刷費	10,000	6,445	3,555	資料作成コピー
通信費	10,000	912	9,088	
会報発行・ 発送費	500,000	534,802	△34,802	松楓40号
慶弔費	20,000	0	20,000	
事務費	10,000	5,920	4,080	事務用品
事業費	200,000	203,680	△3,680	飯高制服ミニチュア、 飯高チアダンス
研修費	100,000	102,096	△2,096	蔵の街栃木市・ 日光東照宮等(28人)
予備費	444,356	0	444,356	
合計	1,464,356	953,058	511,298	

収入合計2,198,092円-支出合計953,058円=1,245,034円(平成29年度へ繰越し)

【財産目録】

普通預金 1,245,034円
定期預金 8,321,594円
上記の通り 報告いたします。
平成29年5月13日

埼玉県立飯能高等学校同窓会
会長 田中 晃一 ㊞
会計 樋口 弘子 ㊞
会計 新井 茂 ㊞


上記監査の結果 正当と認めます。
平成29年4月18日

埼玉県立飯能高等学校同窓会
監事 原島 稔久 ㊞
監事 真野 浩芳 ㊞
(注：原本には認印があります。)

※高校共学3回卒 小山健次郎様から寄附金をいただきました。

追悼

笑顔を偲ぶ



私たち17回卒の同窓会役員は真野浩芳君、森田尚典(柳沢)君、原

島稔久君と樋口(山下)弘子さんが活躍です。

7月6日同窓会研修会の日には計報が届き耳を疑いました。弘子さんにお会いする時は必ず笑顔で迎えてくれ、口を開くと次から次と話題が豊富でした。

真野君から会計を依頼され原島君と一緒に、母校の事務部長と連絡を密に適切な会計処理や会報発行時の発送関係で手腕を発揮されたと伺ってました。まだまだ活躍を期待してたので、誠に残念です。

高校時代彼女は多方面に活躍され担任の上加忠雄先生の薦めで大学進学され、小学校教諭も経験されたりご実家の山下スポーツ店を手伝っておりました。

不思議なご縁で親しくして頂き、今でも計報は信じられないでいます。ご冥福を祈ります。

17回卒 田中 宣子
(入間市在住)

「松楓」定期購読について

飯能高校は、2022年に創立100周年を迎えます。今後、記念事業の準備を進めるなかで、同窓会の活動が一層活発になってくると思われます。創立100周年を盛り上げる施策の一環として、卒業した同窓生の様子や学校の近況を、なるべく多くの会員の方々に知っていただきたく、現在「松楓」の発送対象者の拡大をしております。

従来、一定の会員に「松楓」を発送してまいりましたが、「松楓」の発送経費は、同窓会の会費で賄っております。対象者の拡大に伴い、経費がかさんできております。

そこで、会員の皆様には、「松楓」の定期購読をお願い致します。特に、常任理事、理事の方々には、定期購読の趣旨をご理解のうえ、率先してお申し込み頂きたいと思っております。

定期購読は、一、〇〇〇円で5年間「松楓」をお届け致します。ご希望の方は、副会長都築(☎042-972-2257)までご連絡ください。

平成29年度学校の近況について



教頭
榎本 龍治

導に應えた生徒の努力のたまも
のでしよう。

今後、生徒と信頼関係を築
き、地域の方々そして同窓会の

今年度は2人の初任者を迎え、
飯能高校は96年目を迎えました。

生徒は文武両道、力を発揮して
います。陸上競技部は、今年か
らインターハイの正式種目になっ

た女子の三段跳びで県大会・北
関東大会で優勝し、インターハ
イ出場を決めました。ホッケー

部も10年連続の出場を決めてい
ます。また、野球部が夏の大会
で4年ぶりの勝利。3回戦に進

みました。たくさん応援あり
がとうございました。

学校全体で取り組んでいる英
語検定は、6月に一次試験を学
校で実施しました。本校で取り

組み始めてから4人目となる準
1級合格者を1年生から出すこ
とができました。

進路については、多くの生徒
が自分の進路先をつかみ取りま
した。ホッケーの実力を生かし

早稲田大学に進学者が出ました。
就職希望者は全員が就職先を決
めました。進路指導部が中心と

なった熱意のこもった教員の指
導に

クラスの
団結を高
めました。

総合優
勝は3年
4組でし
た。

「ウォーク21」(強歩大会)正丸駅
〜刈場坂峠〜高山不動〜吾野駅
までの奥武蔵の紅葉の中を21km
を歩きます。お時間がありまし
たら、ぜひ、後輩の活動を応援に
お出でかけください。

◆今後の主な学校行事
9月10日(日)に文化祭が一般公
開されます。

11月22日(水)
「ウォーク21」(強歩大会)正丸駅
〜刈場坂峠〜高山不動〜吾野駅
までの奥武蔵の紅葉の中を21km
を歩きます。お時間がありまし
たら、ぜひ、後輩の活動を応援に
お出でかけください。

◆主な学校行事
4月 入学式(10日)
今年度は、241名の新入生
を迎えました。

遠足(28日)
天候に恵まれ、遠足日和とな
りました。1年生は小松沢レジ
ャー農園でバーベキュー体験。2
年生は羽田
空港に集合
し都内を見
学。3年生
はドイツニ
ーシーで仲
間の絆を深
めました。

5月 PTA総会(20日)
各種委員会の後、総会が視聴
覚室で行われました。

6月 体育祭(9日)
オリジナルのクラス旗のもと、



北関東大会
女子三段跳び優勝、インター
ハイ(山形)出場決定

卓球部
関東大会県予選11年連続出場
新人大会男女団体・シングル・
ダブルス県大会出場

弓道部
全国選抜県予選男子団体ベス
ト16、個人4・8位。

関東県予選男子団体ベスト16
県選抜選手権女子2位・男子8位
国体予選埼玉代表戦1位(関東
ブロック大会出場)

チアダンス部
J D C A全日本チアダンス選
手権ジャズ部門二位
D N A全米オールスターチア
ダンス選手権シニアジャズ部
門準優勝

演劇部
県大会出場

箏曲部・吹奏楽部
第4回定期演奏会合同開催(3月)

吹奏楽部
吹奏楽コンクールCの部 優良賞

環境科学部
県科学教育振興展覧会地区展優良賞

写真部
環境はんのうフォトコンテスト入選

他に多くの部活動や授業で、
地域の小学校等との交流を図っ
ています。

女子三段跳び優勝・5位入賞
女子5000m競歩7位入賞
男女4×100m・男女マイル準決勝

女子三段跳び優勝、インター
ハイ(山形)出場決定

平成29年度人事異動

(退職)
教諭 岡野 武樹
教諭 佐藤富美子

(転出)
教頭 黒沢 敬

事務部長 森 直樹 (狭山経済高校校長 (所沢高校))
教諭 中里 学 (坂戸西高校)

教諭 原田 千鶴 (所沢北高校)
教諭 志村 洋一 (大宮高校)

教諭 穴原千沙都 (狭山経済高校)
教諭 大豆生田寛人 (戸田翔陽高校 (所沢高校))

教諭 大河原良之 (新座高校)
教諭 加藤 清英 (豊岡高校)

教諭 西 祥子 (ふじみ野高校)
教諭 下條 充枝 (川越西高校)

司書 三上 陽子 (川越工業高校)
業務主事 駒井 幸子 (川越工業高校)

(転入)
教頭 榎本 龍治 (川島ひばりが丘特支)

事務部長 嶋田 義雄 (坂戸ろう学園)
教諭 細野 二郎 (滑川総合高校)

教諭 大野 賢一 (飯能南高校)
教諭 藤井 靖士 (皆野高校)

教諭 押野 宏典 (上尾南高校)
教諭 菅沼 範之 (狭山経済高校)

教諭 河野 恵子 (日高高校)
教諭 大野 一平 (狭山清陵高校)

教諭 森田 敏彦 (狭山清陵高校)
教諭 山下 登 (所沢西高校)



母校だより

演劇部 顧問 徳江 大介



私が飯能高校の演劇部顧問になり、12年が過ぎようとしています。思い返せば、同好会からスタートし、はじめは部員数人で数年間地道な活動をしました。なんとか部員が集まり、やっとの思いで大会に参加したこと。昨日のことのように思い出されます。

その後、少ないながらも部員数は安定し、毎年大会に参加出来るようになり、最初は

それだけでも幸せを感じていましたが、そこは飯高生。結果を求め始めた生徒に私も刺激され、今まで以上に毎日遅くまで練習に励みました。そしてついに中央大会出場を決めることができた時は本当に嬉しかったことを思い出します。

素敵に変わっていく。その姿を見ることが何よりも楽しみなのです。これから後何年飯高にいられるかわかりませんが、そんな素敵な飯高生に一人でも多く変わっていつてももらえよう見守れたらと思いたいと思

そんな我が演劇部も昨年再び地区大会を勝ち抜き中央大会に出場することができ、さらには創作脚本賞までいただくことができました。手前味噌ではありますが、本校演劇部にとっては快挙と言ってよいかと思います。今年はどうなるか、まだわかりませんが、精一杯頑張りたいと思

ついで、一人でも多く変わっていつてももらえよう見守れたらと思いたいと思



顧問を続けていくうえで、私には密かな楽しみがあります。演劇部には、人とコミュニケーションを取ることで苦手な生徒が多いのですが、そんな部員たちが、ステージ上で別の誰かを演じ、スポットに照らされ、観客の心をつかみ、喝采を浴びることにより、

バスケット部
顧問 梅田 直希

飯能高校は90年を超える伝統があり、ホッケー部をはじめ様々な部活動において全国・関東レベルの大会に出場するなどその活躍は素晴らし

いものがあります。バスケット部においても例外ではなく女子においては、激戦区と

呼ばれる埼玉県を勝ち抜き全日本・関東に出場した実績を誇ります。男子部も大舞台への出場実績こそありませんが、近年では県大会に出場することができるようになりました。また、部員も平成29年4月現在で37名(女子マネージャー5名含む)と飯能高校の中では最も大きな部活動の1つとなり、今後の飛躍に向けた地固めをしているところです。今年度引退した3年生の代では県大会に出場することが出来ませんでした。その思いを引き継いだ後輩達が必ず県大会出場を果たしてくれるでしょう。私が飯能高校に赴任して2年目となりますが、バスケット部に大きな期待と可能性を抱きながら日々指導に励んでいます。それと同時に大きな不安もあり、自信を失いかけることもありま



す。それでも、生徒の成長と勝利、元気がつ楽しそうにバスケットに取り組み姿をみて、気持ち奮い立たせられる毎日です。

現段階では県大会出場を目標としていますが、いつの日か強豪私学の壁を越え関東大会やその先の全国大会出場を勝ち取りたいと思います。そして結果だけでなく、OBやOGをはじめ保護者の方々に関係する様々な方々に、応援され愛されるチームを目指していく所存です。

母校愛



16回卒
前会長
田中 晃一
(入間市在住)

新副会長挨拶



23回卒
澤田 清志
(飯能市在住)

ご活躍を祈念します。
「ありがとうございます」

9・11はNY同時多発テロ、3・11は東日本震災原発事故、8・6は広島、8・9は長崎を日本国民に連想させる。月日(数字)の意味を私達は共通理解し忘れないことが必要でしょう。

3・14母校卒業式答辞でπと関連させた内容に柔軟な発想と感性の豊かさが伝わった。

飯能高校同窓会の存在は未だ同窓生に浸透できず残念だ。年一回の会報発行は今年41号を数え、当初から絶え間なく引き継いだ役員に努力に改めて敬意を表したいです。

縁あって同窓会長を引き継ぎ不安な毎日でした。母校愛と同窓生の絆を深める方策を中心課題に、役員で検討を重ね「松楓」は充実し継続できました。

同窓会役員は母校愛を大切にしてお互いの絆を深めました。微力な私を支援して頂き、今回会長の擲を確実につなげることができ、清々しい感謝の気持ちで一杯です。

後任会長・役員は母校と連絡を密にされ、100周年記念事業実行委員会と協力され一層の

お役に立つことができればと、役を引き受けることとなりました。多くの先輩たちが、この伝統ある同窓会を継承してきたことに、敬意と感謝を強く感じています。引き継ぐ者の一人として、繋ぎ役として、微力ではありますが務めて参りたいと考えています。

今総会の折り、「同窓会のことや会の動きを知る事があまりにも少ないのでは。」と参加者から意見が出されました。「もっと周知を」ということでしよう。私も理事でありながら、長年同期に広報で知ったことを伝えていなかったことを深く反省しました。今後少しでも伝え役になれればとも思っています。

卒業をして46年、母校の発展を思う気持ちは強く、とりわけ在校生や卒業生の活躍はこの上なく嬉しく、誇りにも感じます。2万人を超えるという同窓生と一緒に、少しでも母校の発展に役立つ応援をしたいと考えています。

蔵原伸二郎の資料展示へ250点寄贈

校歌の作詞者である町田多加次さん(4回卒)が、飯能の詩人・蔵原伸二郎の功績を後世に伝えるべく、同氏の出版物、写真などの資料約250点を市立図書館に寄贈しました。



2017年2月11日 文化新聞

同窓会理事名簿追加

平成29年3月卒業(高校69回)された同窓生の中から、左記の方が理事となりましたので紹介いたします。

1組	松本悠太郎
2組	渡辺 悠太
3組	石田 来夢
4組	塩野 潤
5組	緒方 哲也
6組	管 亜斗夢
7組	鍛冶田悠也
8組	松信 瞬
9組	勇 裕之
10組	大河原祥平
11組	貫井 祐美
12組	松田 直樹
13組	直樹

体育館リニューアル



これまでの体育館の外観はルーフがシルバー、側面(妻側)が濃いブラウン系でしたが、ルーフを深みのあるグリーン系・妻側をシックなグレージュに昨年塗り替え、イメージチェンジしました。

編集後記

編集会議で話題になるのが、飯能高校同窓会の存在は未だ同窓生に浸透できていない事です。今回41号の編集に向けて、学校の先生方始め多くの原稿・写真等お寄せ下さった方々に心より御礼申し上げます。

皆様方の貴重な寄稿文又、大切な思い出の写真が会報「松楓」が同窓生の架け橋になり、より多くの方々に読んでいただけたら幸いです。

〔編集委員〕(◎編集委員長)

- 高野伊九子 本橋憲一郎
- 澤田 清志 ◎大野ナミ子
- 都築 敏夫 新野代里子
- 佐野 勇 豊田 美子
- 谷ヶ崎艶子 市川 光男
- 堀口 清 川端 邦明

会報「松楓」第41号

平成29年9月1日(再発行)
発行 同窓会長 本橋憲一郎
印刷 (有)山村印刷
発行所 埼玉県飯能市
埼玉県立飯能高等学校内
飯能高等学校同窓会